

令和5年度 第3回宮古島市地産地消推進協議会  
議事要旨

日時：令和5年9月12日(火)12:00～

場所：郷家なはれ

出席：別紙出席者一覧のとおり

協議事項

1. 前回の振り返り

- 議事要旨の確認

2. 今後の進め方について

- 会長・副会長との事前ミーティング内容を共有した上で、どのような進め方がよいか議論した。事前ミーティング内容は以下のとおり。
  - これまで2回の会議にて、各会員の取り組みたいことや課題については概ね出そろってきているのでは。
  - 例えば、以下の点について、具体的なアイデアを出し合うのはどうか。
  - ①情報共有の仕組み：生産に関するカレンダーは共有されているが、いつ・誰が・何を作っているかなどの情報共有の仕組みが必要
  - ②宮古の食材はおいしいということを広める仕組み：味が濃いとされる宮古の野菜とその理由・エビデンスをつなげることは困難との専門家助言を踏まえ、何ができるか
- 様々な分野の人たちが参加している場なので、異業種の人からの意見を聞きたい。
- 生産者としては、前回までの会議で課題の議論が尽くされたとは思っていない。専門部会のような形で課題を深掘りしていてもいいのではないか。
- 論点として、生産しやすい時期に多く生産し、保管・貯蔵して年間通じて使うことができるようにするのか、生産の時期をできるだけ長くするような取り組みをするのか。両輪だが、品目にもよる。
- 使用する側からは加工して納品して欲しいというニーズがあるが、対応できるのか。
- そもそも生産者のモチベーションが上がって、生産してくれないと始まらない。そのための取り組みは考えたい。
- 漁業に関しては、鮮魚は大半が既に域内で消費されている。モズクは域外に出されている一方で、域内で消費されている域外産のモズクもある。域外販路の

基盤も整ってきたので、今後は加工や域内消費も考えていきたい。

- 買う側・使う側にこうした取り組みを共有して、地産食材を利用しようという意識を高めていきたい。
- これだけ様々な関係者が集まる場は貴重。一方、ここまでの議論で、課題のブロックが見えてきていると思うが、どの課題に対して議論しているかが分からなくなってきている。色々な課題を可視化して整理し、提言できるとよい。問題が全部出し切れているわけではないと思うので、理想的なあるべき姿を議論し、提示できるとよいのではないかな。
- 農林水産省が公表している流通の構造図がある（生産から消費まで、どのルートを通っていくかの概念図）。これをベースに、生産から消費まで、どこにどのような課題があるかを図にはめていって、可視化し、全員で確認していってはどうか。
- 一同了解。

以上